

第三者意見



九州大学主幹教授・
工学府都市環境システム工学
専攻長

馬奈木 俊介 氏

NIPPOの新しい取り組みが十分に説明されていて読み応えがある報告書になっています。例年様々な新しい技術を紹介されていますが、今年はオゾンスパークリングという土壌浄化の技術を紹介しています。コアな取り組みの継続した紹介と新しい取り組みの紹介は今後も続けてほしいと思います。

そして、多くの社員の声を盛り込み、従業員の顔の見える内容になっています。また、読者の声を受けてでも全国の事業所のCSR活動の取り組みを入れることで、従業員やその他のステークホルダーにも読みやすい、親しみやすい内容になっています。

その一方で、今年、NIPPOは残念ながら東北エリアにおける独占禁止法違反の件で東京地方検察庁から起訴を受けて、トップメッセージにおいて今後の改善策について触れております。報告書として、独占禁止法違反を受けての「コンプライアンス」、社員からの情報開示の必要性に関する意見を受けての「従業員とのかかわり」にてしっかり情報開示しています。ステークホルダーからの要請にできるだけ応えるよう少しずつ改善していく姿が良く見えます。

今後は、これをきっかけにして、最低限行う法令順守を越えて、イニシアティブを取ることで「ベスト・プラクティスとして企業価値を向上させることができるNIPPO」になっていただきたいと思います。

2015年9月、国連持続可能な開発サミットで、2030年までに達成すべき持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)を含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。これまで途上国の貧困や教育を中心課題としたミレニアム開発目標(Millennium Development Goals: MDGs)が2015年を目標に実施されてきましたが、このSDGsはMDGsに代わる今後の世界的な目標として位置づけられます。

SDGsの17項目の目標と169の課題項目に照らして総点検し、NIPPOの目標と現実のギャップを埋め、かつさらなる貢献をすることが求められます。SDGsでは、貧困根絶、教育改善、資源保護といった国連的な目標だけでなく、1) 持続可能なインフラストラクチャー構築、2) 包括的で安全かつ持続可能な都市および生活環境を実現する、3) 持続可能な開発のため…すべての人々への司法へのアクセス提供、およびあらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度の構築を図る、まで網羅しています。NIPPOにおいて、1)~3)の内容についてさらに持続可能な取り組みを導入し、SDGsへポジティブに貢献することで企業としてもポジティブになるような取り組みを、さらに進めて欲しいと思います。

ご意見をいただいで



環境安全・品質保証部長
飯塚 直久

馬奈木先生には、NIPPOのCSR活動に対して、貴重なご意見およびご提案をいただき誠にありがとうございます。

2016年2月の独占禁止法違反による起訴を受けて、誌面でも再発防止策を紹介させていただきました。皆様からの信頼回復に向けて、これらの施策を徹底し、当社の企業理念である「確かなものづくり」に取り組んでまいります。

環境問題等の社会課題に貢献しうる新しい技術開発については評価いただきましたが、引き続き積極的に取り組んでまいります。SDGsに対する取組みについては、今後、当社が事業を通してどのような貢献ができるか、社内で検討を進めていければと考えております。引き続きご助言をいただけますと幸いです。